

【山崎名誉主宰の俳句】

月の夜

山崎 聰

ゆらゆらと春の日射しの中をひとり
八十八夜こえを出すこと忘れいて
硝子戸を雨粒たたききのう夏至
みんなであるくアカシアの花の下
与うべき何もなければ夏の月
関東の片隅におり蜘蛛の糸
跳べそうだとべない高さ朝の月
房総に住んで十年秋の薔薇
台風の近づく気配きのうきょう
このあたり人住んでおり月今宵